

# 一般農法と

## 磁気を介した「松井式特許農法」及び将来への展開農法について

松井エネルギー研究所 主任研究員 松井嗣光

松井エネルギー 四国愛媛松山農場 前田しょう子

松井エネルギー 大分夢農園宇目農場 北田雅清

KK フジワラアグリコルトゥーラ 木村 理

一般農法とは、地球活動全てのエネルギーを利用して（自然農法）作物を生産するのが定法の手段であったが、いつしか地球上の生命体等の増加、他農業経済事情及び諸々の実情に伴い、以来食料の確保手段は、前記諸般の事情派生から、自ずと離脱症状を誘発し「化学（科学）」農法へと止む無く方向を転換せざるを得ぬ現下になり、今、振り返りみると、文明の開化が齎した負の遺産、所謂地球環境全体の汚染から、農作物全体の汚染までへと進み、農作物の生産基本である水・土・空気の汚染、太陽光の部分直下被害（オゾン層の部分破壊）、更には、二酸化炭素等の異常排出等に伴う温暖化等々を醸成し、いまや地球の存続が危うい急迫の事態を招いていることは、万人が認識（京都議定書・コップ21パリ協定書・コップ25）をしています。

そして、その因果が動物の生命維持活動の基本泉にある、

### <おまんま>

の生産と需要とのバランスにまで及んでいきます。今後は、現況以上に崩れていくことは、自明の理でしょう。

皆さん本格的な食料危機は、近未来に急迫しており他人事ではなくなり、食料確保のための奔走と言う、虚しい現実を迎えることになってしまつたら、

### <どうしますか>

小生が意図する明確な解決策は、「一つ」しかありません。

現下の地球環境で、4定（定時・定量・低価格・低品質）農法を実現するしかないのです。

それも地球を汚染せず、しかも低エネルギーを基台に ”

先進国近代農法の魁は、4定農法を「具現化をと」躍起になり、現況では、オランダ農法が一步抜きんでているとのこと。

我がグループも負けじと孤軍奮闘し、松井式特許農法なるものを数箇所実演稼働させております。

その中で、近場（弊所から）での一例を紹介しますと “

同農法は、磁気プロトニクスを応用した「その1」磁気付与農法：(土壤に磁気振動・動磁力を付与した農法)と「その2」気泡磁化水・振動水付与農法：(磁化水を曝気気泡化した機能水を介した農法)であり松井エネルギー研究所グループは、大分県の佐伯市宇目町で同農法の実演をしております。(夢農園；北田雅清)

鉄柱圃場で、面積は約30アール；作付けは、「種なしピーマン：10アール他バナナ20アールを同一圃場内、同一条件でチャレンジしております。(他県でもトマト・イチゴ・メロン・にんにく・米・葉菜類あり)

因みに、種無しピーマンは、10アールに気泡農法を、片方20アールにはバナナを磁気付与農法で、其々実演稼動しております。

松井式農法を簡略説明しますと、

まずは、基本に永久磁石(磁気プロトニクスの原理応用)を使用します。

次に農薬の使用を控えるか、若しくは使用を最小限とします。

副次的には、圃場内に作物生長装置、磁気振動旋風及び磁気・灯油熱風(冬季のみ)を供給し、水を磁化・曝気・気泡化し機能水を創水し、且つ、循環扇で大気を活性化し害虫・害菌の防あつ(交番磁界)を仕組み、

更には、「太陽・空気・水」の3条件の享受させ、「酸素・炭素」の光合成循環サイクル要件を求め、そして「肥料N・P・K」(窒素・リン酸・カリ)の3要素、「Mg・Ca・S(マグネシウム・カルシウム・イオウ)」の2次要素、「Mn・B・Fe・Cu・Zn・Mo・Ci」(マンガン・ホウ素・鉄・銅・亜鉛・モリブデ・塩素)微量要素を其々の作物に応じた配給をし、求目的農産物を生産する画期的な農法であります。

本農法は狭い敷地を最大限に活用し、其々の特許マシンを適応させての近未来型生産農法でもあり、他方遺伝子組み換え等の先端農法を否定し「原種温存方式」を保守した旧来農産物の種から発芽、育苗、生育・生長、収穫、出荷までの全工程を一貫して大量生産が出来る手法をと、食の安全生産観点からも、是非是非成功させ、世のため、人のために寄与せねばと思っております。

我々松井エネルギー研究所は、この新技術農法を必ずや完遂させ、日本いや世界の農業の未来の架け橋になるべく為、鋭意前進していく所存でございます。

※最後に、日本農業の後継者不足はどこにあるのか真剣に考えたことはあるのか、関係各位に問うてみたい“

答えは「一つ」・・・・・・・・・・・・・・・・。

以上

松井エネルギー研究所

主任研究員上記名拝

令和元年初冬(11月中旬)